

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年10月2日（木）

2 確認箇所

- ・覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）（図1）
- ・瓦礫類一時保管エリアCC（図1）

3 確認項目

- （1）覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）解消作業の状況
- （2）瓦礫類収納容器詰替作業の状況

4 確認結果の概要

（1）覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）解消作業の状況

東京電力は、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外における一時保管を令和10年度中に解消することを目指している。それに向けた取組の一環として、覆土式一時保管施設※（瓦礫類一時保管エリアL）に一時保管された瓦礫類を取り出し、金属容器へ収納した後、固体廃棄物貯蔵庫での保管を計画している。

当該エリア内には、第1槽から第4槽までの計4つの一時保管槽が設置されているが、第4槽では遮水シート、覆土、大型土のう等の撤去が完了し、それらの下部に保管されている瓦礫類の撤去・運搬が開始されたため、当該エリアの状況を継続的に確認している。（前回確認：令和7年8月20日）

- ・放射性物質の環境への飛散を抑制するため、第4槽を覆う形で仮設ハウスが設置されており、その内部において瓦礫の撤去及び容器への収納作業が実施されていた。（写真1）
- ・瓦礫の撤去及び容器への収納作業は、遠隔操作が可能な重機により実施されていた。遠隔操作室は、空間線量が0.01 mSv未満と低く、空調も整備されており、作業しやすい環境が確保されていた。（写真2）
- ・連続ダストモニタにより、ハウス内外各所の空气中放射性物質濃度が測定されていた。指示値を確認したところ、いずれの場所においても異常は認められなかった。
- ・第4槽近傍の空間線量率は0.8 μ Sv/hであった。（写真3）
- ・第4槽を覆うハウスに破損等の異常はなかった。また、第1槽から第3槽について目視で確認した範囲では、瓦礫類の飛散や流出等の異常はなかった。（写真4）

※ 覆土式一時保管施設

高線量（～30 mSv/h）の金属やコンクリート等の瓦礫類に覆土遮へいを施した一時保管エリア。

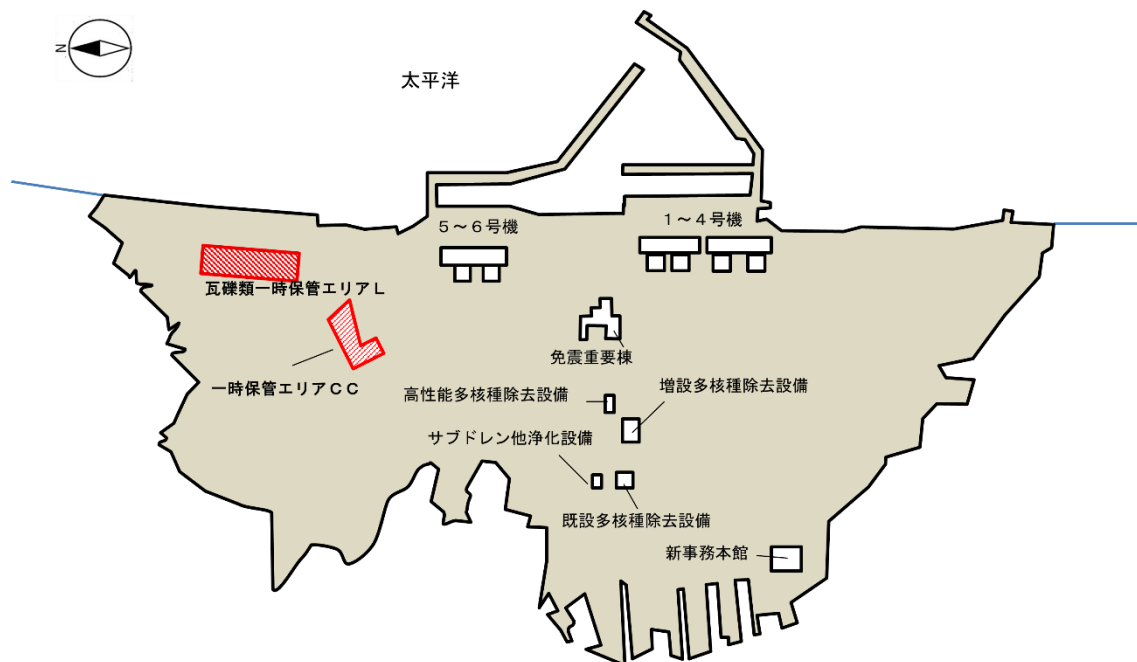
(2) 瓦礫類収納容器詰替作業の状況

廃炉作業に伴い発生した瓦礫類は、種類や表面線量に応じて分類され、発電所構内で一時保管されている。東京電力では、瓦礫類の屋外保管を解消するため屋内での一時保管に向けた取組を進めているものの、多くは金属製コンテナ等に収納された状態で屋外に保管されている。

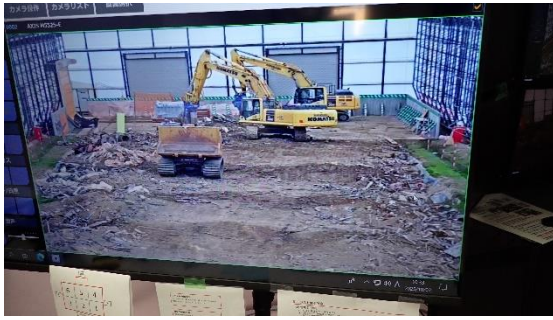
長期間の屋外保管に伴い一部の容器に劣化が生じていることから、東京電力は、瓦礫類一時保管エリアＣＣ（以下「一時保管エリアＣＣ」という。）の一面に詰替ヤードを設置し、経年劣化した旧コンテナから新コンテナへの内容物詰替作業を実施している。

本日は、一時保管エリアＣＣ内で実施されている内容物詰替作業の状況を確認した。（前回確認日：令和6年10月29日）

- ・詰替ヤードには、瓦礫を把持する重機や、金属瓦礫を磁力で吊り上げる重機が配備されていた。確認した範囲では、油漏れ等の異常は確認されなかった。（写真5）
- ・人と重機の接触を防止するため、重機の作業エリアは単管バリケードにより区画されていた。（写真6）
- ・詰替ヤードの北側及び南側の二箇所には、空気中の放射性物質を監視するためのダストモニタが設置されていた。（写真7）
- ・詰替ヤード周辺を確認した範囲では、瓦礫類の飛散や流出等の異常はなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1)
仮設ハウス内での作業状況
※カメラ映像を映したモニタを
確認



(写真 2)
遠隔操作室の状況



(写真 3)
空間線量率の測定状況
※確認時の指示値 : 0.8 $\mu\text{Sv/h}$



(写真 4)
第 2 槽の状況



(写真5)
重機の配備状況



(写真6)
詰替ヤードの区画状況



(写真7)
ダストモニタ設置状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。